

2025年12月の週末に、西川家でホームステイをさせていただく機会に恵まれました。ホームステイ前は、日本語でどうやって会話するか不安で、特に自分の日本語の会話力に自信がありませんでした。でも、西川様はとても親切で、私が話す練習をしたいことも理解してくださり、必要なときはゆっくり話したり、簡単な言い方にしてくれました。私も、相手がまだ知らないかもしれない英語の単語を、いくつか伝えることができました。

初日の夜は、西川様が浜松にある地元の居酒屋に連れて行ってくださいました。そこは周りの常連さんにも親しまれているお店で、いろいろな地元の料理を食べることができました。そして、お互いにしっかり自己紹介をして、背景について話しました。私はカナダ東部のオンタリオ州トロント出身で、西川様は静岡県浜松出身だというお話でした。

翌日は主に浜松を見て回る日でした。浜松の少し田舎のほうにある市場に行ったり、近くの神社やお寺にも行きました。西川様は南アジア文化に詳しく、興味も持っていたので、浜松の南インド料理のお店にも連れて行ってくださいました。浜松にそういうお店があるのは意外で、驚きました。私はベンガル系カナダ人として、一世の移民としての経験や、自分のルーツで知っていることをお話しました。また、バングラデシュの祖母が作ってくれた伝統的なベンガルの「アチャール (Achar)」をお土産として渡しました。アチャールは、マンゴーなどを油や塩で漬けた、漬物のような薬味で、ほかの果物や野菜でも作れます。夕食では、家庭風の「ちゃんこ鍋」を初めて一緒に作ることができました。いろいろな材料や手順など、家庭料理のコツを基本から細かいところまで学び、会話をしながらとてもおいしく食べられました。

2日目で最後の日は、西川様が私のために静岡市方面への小旅行を計画してくれて、一緒に「焼津魚市場」を訪れました。そこで、初めて本格的なお寿司を食べることができ、地元で取れた魚が売られている様子も見ることができました。その後、静岡を観光しながらいろいろなお店を回り、最後に家まで送っていただいて、ホームステイは終わりました。

本当に楽しい時間でした。言葉や文化の壁があっても、日本の家庭の普段の生活を体験できたことで、私もとても安心でき、家にいるように感じました。そして、このホームステイがなければできなかったようなつながりも作ることができました。静岡大学で学ぶ方には、ぜひ一度参加してみたいです。きっと、一生残る貴重な経験と思い出になると思います。

